

よろこび

聖徒のための情報誌

今月号の内容

全国の聖徒団を訪ねて(1面)
 全国の聖徒さん紹介
 聖徒さんの体験談(2面)
 宮崎県本光寺「星まつり祈願会」
 よろこびちゃんの質問箱
 日蓮大聖人の歩まれた道(3面)
 よろこび法話(4面)

平成28年(2016年)4月1日(金)
4月号

発行所
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町3-25-11
 九段中央ビル702
 日蓮宗霊断師会九段事務所
 電話 03-6272-9340
 FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 末吉 観道
 編集人 松本 恵昌
 購読料 1部 100円(税別)
 毎月1回1日発行
 日蓮宗霊断師会ホームページ
<http://www.yorokobi-reidanshikai.jp>
 よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

全国の聖徒団を訪ねて

外国人留学生と共に



石黒団長による講義

名古屋市妙泉寺聖徒団(石黒泰良団長)では十二月十二日、愛知大学に海外より留学している学生二十七名を招いて「日本の文化を学ぶ授業」を行った。

石黒団長は日頃より青少年教化・未信徒教化に力を入れており、専門学校等で心の授業を行っているが、その評判を聞いた愛知大学が外国人留学生に日本の文化や精神を教えて欲しいと依頼してきた。

まず、雅楽の演奏で留学生をお迎えし、開校式を行った。

一時限目は、妙泉寺聖徒団護持会長夫人の小川久子様(茶道教授 他五名の先生方

妙とは蘇生の義なり

千葉県顕本寺聖徒団団長 霊断院教学部長

小泉 輝泰

春は芽吹き季節です。新たな希望に胸を躍らせる新入生、まだ着慣れぬスーツに身を包んだ新入社員など、そこかしこで初々しい若者の姿を目にします。人は必ず人生の中で、いくつもの節目を迎えます。

幼子は青年となり、そしてその青年もいつしか立派な社会人となる。やがて人生の伴侶を得、父や母となり、いずれは祖父、祖母ともなります。それぞれの節目で新たな役割を知り、今までは違う新しい自分としての一歩を踏み出す、いわばそれは、人生の中で生きながらにして迎える、「蘇り」の時とも言えます。

「蘇り」の時とも言えます

いまよりおよそ二、五〇〇年前の四月八日、印度で一人の聖人が誕生されました。そのお方ゴータマ・シッダールタこそが、私たちに悟りへの道をお示し下さった佛陀積尊でした。やがて出家をされた積尊は、人類が未だかつて到達したことのない無上の悟りを得られました。しかし悟ってみれば、それは昨日今日得た未知の智慧などではなく、今生に我が身を受ける遙か過去から、そしてその身が滅した後の遙か未来へと、自身の中に息づく久遠本佛の命の息吹そのものであったのです。それに気付かれた積尊は、無上の喜びを『法華経』の教えに込められ、後世の人類に残されました。

宗祖立教開宗

長い佛教の歴史の中で、『法華経』に説かれる悟りを何とか理解しようと、数多の先人が試みしました。しかし誰も積尊と同様の悟りに達することは出来ず、あるいは佛の大きな功德に唯々縋り、またあるいは今生を捨て、遙か西方の理想世界を求めたのです。

万年に続く末法の世で、人々に諦め心が蔓延する中、ただ独り立ち上がられたのが、宗祖日蓮大聖人でした。大聖人は



初めての茶道体験

の手ほどきで茶道体験。みんな緊張の面持ちで茶筌を取り、見よう見まねで御抹茶を点てた。お菓子を頂くときには自然とほころび、美味しそうに口に運んでいた。

二時限目は、市内寺院僧侶で結成する雅楽部による雅楽の演奏と雅楽体験。全員雅



は、二十年にもわたる長い研鑽を積み重ねた後、遂に『法華経』の中に秘められた積尊の大慈悲のみ心を見出されました。そして建長五年四月二十八日、故郷である安房の国清澄山の旭が森にて、世の闇を切り裂くが如く光り輝く朝日に向かい、「立教開宗」の宣言として高唱に南無妙法蓮華経の第一声を発せられたのです。

蘇生と申すはよみがへる義なり

その折、ご自身の名を蓮長より日蓮と改められました。まさしく大聖人にとって、積尊の意志を受け継がれ、一切衆生を成佛得道に導かんと誓う、新たな第一歩の始まりでした。以来、大聖人が苦難のご生涯を通して私たちに伝えたい願いは、お題目の偉大なる功德によって、私たちの誰もが久遠本佛の永遠の命を我が身の内に感じ、この世に生を受けた本当の意味を思い出すことでした。それが、昨日までと何ら変わらぬこの身このままで、然して本佛のみ遣いとての「蘇り」を果たす、誠に神秘不可思議なお題目の信仰、一切衆生の成佛得道の尊き姿なのです。



参加者全員での記念撮影

津軽宇田山 間法寺



毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」
 毎月 最終日曜日「盛運祈願会」
 毎月 第2土曜日
 午後3時より「唱題修行」

〒030-1403
 青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
 TEL 0174-25-2712
 住 職 工藤 堯幸・副住職 工藤 堯慎

妙正寺聖徒団



毎月1日午前10時 盛運祈願会

北海道妙正寺聖徒団

〒071-1423
 北海道 上川郡東川町東町2丁目6-3
 TEL 0166(82)2714
 FAX 0166(82)2914

妙頭寺



いかにされるよろこび

美濃 乃 國
常唱寺 聖徒団

〒501-3734
 岐阜県美濃市千畝町2738-2
 TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙頭寺



天目聖人御報恩
 平成屋根等大改修
 ご寄付募集中!

●郵便振替
 口座番号 00180-6-267327
 口座名義 妙頭寺建設委員会

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
 TEL 0283-22-1524
 FAX 0283-22-4194
<http://www.sano-myoukenji.jp>

感通寺



日蓮宗霊断師会終身名誉会長
 感通寺聖徒団団長
新聞 智雄

〒162-0044
 東京都新宿区喜久井町39
 TEL 03-3209-8782
 FAX 03-3208-7966

よろこび

聖徒のための情報誌

今月号の内容

全国の聖徒団を訪ねて(1面)
 全国の聖徒さん紹介
 聖徒さんの体験談(2面)
 宮崎県本光寺「星まつり祈願会」
 よろこびちゃんの質問箱
 日蓮大聖人の歩まれた道(3面)
 よろこび法話(4面)

平成28年(2016年)4月1日(金)
4月号

発行所
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町3-25-11
 九段中央ビル702
 日蓮宗霊断師会九段事務所
 電話 03-6272-9340
 FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 末吉 観道
 編集人 松本 恵昌
 購読料 1部 100円(税別)
 毎月1回1日発行
 日蓮宗霊断師会ホームページ
<http://www.yorokobi-reidanshikai.jp>
 よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

全国の聖徒団を訪ねて

外国人留学生と共に



石黒団長による講義

名古屋市妙泉寺聖徒団(石黒泰良団長)では十二月十二日、愛知大学に海外より留学している学生二十七名を招いて「日本の文化を学ぶ授業」を行った。

石黒団長は日頃より青少年教化・未信徒教化に力を入れており、専門学校等で心の授業を行っているが、その評判を聞いた愛知大学が外国人留学生に日本の文化や精神を教えることに依頼してきた。

まず、雅楽の演奏で留学生をお迎えし、開校式を行った。

一時限目は、妙泉寺聖徒団護持会長夫人の小川久子様(茶道教授)他五名の先生方

妙とは蘇生の義なり

千葉県顕本寺聖徒団団長 霊断院教学部長

小泉 輝泰

春は芽吹き季節です。新たな希望に胸を躍らせる新入生、まだ着慣れぬスーツに身を包んだ新入社員など、そこかしこで初々しい若者の姿を目にします。人は必ず人生の中で、いくつもの節目を迎えます。

幼子は青年となり、そしてその青年もいつしか立派な社会人となる。やがて人生の伴侶を得、父や母となり、いずれは祖父、祖母ともなります。それぞれの節目で新たな役割を知り、今までは違う新しい自分としての一歩を踏み出す、いわばそれは、人生の中で生きながらにして迎える、「蘇り」の時とも言えます。

「蘇り」の時とも言えます

いまよりおよそ二、五〇〇年前の四月八日、印度で一人の聖人が誕生されました。そのお方ゴータマ・シッダールタこそが、私たちに悟りへの道をお示し下さった佛陀積尊でした。やがて出家をされた積尊は、人類が未だかつて到達したことのない無上の悟りを得られました。しかし悟ってみれば、それは昨日今日得た未知の智慧などではなく、今生に我が身を受ける遙か過去から、そしてその身が滅した後の遙か未来へと、自身の中に息づく久遠本佛の命の息吹そのものであったのです。それに気付かれた積尊は、無上の悦びを『法華経』の教えに込められ、後世の人類に残されました。

宗祖立教開宗

長い佛教の歴史の中で、『法華経』に説かれる悟りを何とか理解しようと、数多の先人が試みましたが、しかし誰も積尊と同様の悟りに達することは出来ず、あるいは佛の大きな功德に唯々縋り、またあるいは今生を捨て、遙か西方の理想世界を求めたのです。

万年に続く末法の世で、人々に諦め心が蔓延する中、ただ独り立ち上がられたのが、宗祖日蓮大聖人でした。大聖人は



初めての茶道体験

の手ほどきで茶道体験。みんな緊張の面持ちで茶碗を取り、見よう見まねで御抹茶を点てた。お菓子を頂くときには自然とほころび、美味しそうに口に運んでいた。

二時限目は、市内寺院僧侶で結成する雅楽部による雅楽の演奏と雅楽体験。全員雅



は、二十年にもわたる長い研鑽を積み重ねた後、遂に『法華経』の中に秘められた積尊の大慈悲の心を見出されました。そして建長五年四月二十八日、故郷である安房の国清澄山の旭が森にて、世の闇を切り裂くが如く光り輝く朝日に向かい、「立教開宗」の宣言として高唱に南無妙法蓮華経の第一声を発せられたのです。

蘇生と申すはよみがへる義なり

その折、ご自身の名を蓮長より日蓮と改められました。まさしく大聖人にとって、積尊の意志を受け継がれ、一切衆生を成佛得道に導かんと誓う、新たな第一歩の始まりでした。以来、大聖人が苦難のご生涯を通して私たちに伝えたい願いは、お題目の偉大なる功德によって、私たちの誰もが久遠本佛の永遠の命を我が身の内に感じ、この世に生を受けた本当の意味を思い出すことでした。それが、昨日までと何ら変わらぬこの身このままで、然して本佛のみ遣いとての「蘇り」を果たす、誠に神秘不可思議なお題目の信仰、一切衆生の成佛得道の尊き姿なのです。



参加者全員での記念撮影

津軽宇田山 間法寺



毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」
 毎月 最終日曜日「盛運祈願会」
 毎月 第2土曜日
 午後3時より「唱題修行」

〒030-1403
 青森県津軽郡外ヶ浜町平舘元宇田52-2
 TEL 0174-25-2712
 住 職 工藤 堯幸・副住職 工藤 堯慎

妙正寺聖徒団



錦川 朝太

毎月1日午前10時 盛運祈願会

北海道妙正寺聖徒団

〒071-1423
 北海道 上川郡東川町東町2丁目6-3
 TEL 0166(82)2714
 FAX 0166(82)2914

妙頭寺



いかにされるよろこび

美濃 乃 國

常唱寺 聖徒団

〒501-3734
 岐阜県美濃市千畝町2738-2
 TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙頭寺



天目聖人御報恩
 平成屋根等大改修
 ご寄付募集中!

●郵便振替
 口座番号 00180-6-267327
 口座名義 妙頭寺建設委員会

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
 TEL 0283-22-1524
 FAX 0283-22-4194
<http://www.sano-myoukenji.jp>

感通寺



日蓮宗霊断師会終身名誉会長
 感通寺聖徒団団長

新聞 智雄

〒162-0044
 東京都新宿区喜久井町39
 TEL 03-3209-8782
 FAX 03-3208-7966

宗祖日蓮大聖人 御降誕八〇〇年 に向けて

～第四十四回「春の大祭」 大荒行平和復興大国禱会・ 四菩薩開眼入魂式～



岩手県遠野市法華寺

岩手県遠野市法華寺聖徒団(阿部は秀団長)で二月十一日(建国記念日)、第四十四回「春の大祭」大荒行平和復興大国禱会・四菩薩開眼入魂式と併せて、二月十日に日蓮宗大荒行堂を成満したばかりの行僧九名が出仕し、聖徒七〇〇名参列のもと、国禱会が行われた。午前十時より遠野市宮守町の青年会「和(なごみ)会」による行僧を迎え太鼓の披露があり、多くの聖徒が百日荒行の御利益をいただくとうと水行場を囲み、荒行僧がかぶる水しぶきをいただいた。午前十一時より法要が行われ、結果百日の荒行を終えた修行僧のお経が堂内を包み込んだ。御宝前では力強い木剣の音とともに新たに建立された四菩薩の開眼修法が行われた。

日蓮宗大荒行堂正伝師工藤日温(以下は日温)は「初行さんの中でお医者さんの免許を持っていらっしゃるお上人が、その方のお父さんから聴診器を預けられ保管していた。修行が始まり三週間がたった朝の三時の水行の時、当山のお弟子である初行の鹿兒島是祥上人が水行場いきなり倒れて意識を失ってしまった。その時、医師の資格を持っている初行僧に聴診器がほしいと言われ、保管していた聴診器を渡し、診察してもらった。瞳は開き、手足を上げてもうと反応がなかった。診断は脳梗塞の可能性があるとされた。朝勤が終わるまでお題目を唱えながら聴診器をあててくださいと、その初行の医師に告げて、一三四名の行僧と共に鹿兒島上人の回復を一心に鬼子母神様の前で祈願した。朝勤を終え、鹿兒島上人のもとに行くと医師の初行僧より少しづつ意識が回復している事を聞いて、改めて鬼子母神様の守護の力をかみしめ法華経、お題目のお力を確信した。

荒行堂の御宝前の左右に二句の楠木の柱聯が掛かっている。「寒水白粥凡骨将死」

かんすいびやくじゆく、ほんこつまさに死(かれ)なんとす「理懺悔聖胎自生」

守様の力強い後押しがあったからこそ。」と感謝の言葉を述べた。鹿兒島是祥上人は謝辞の中で「水行の時に倒れた記憶がなく、そのような状況になっていた事を本日、正伝師様のお言葉で初めて知ることが出来た。その倒れた次の日から必死の気持ちで、読経・水行と走り回っている記憶しかなかった。改めて大荒行堂の鬼子母神様から自分の命を頂いたと感じた。命を頂いたその恩に報いる為、更なる法華経広宣流布に邁進していきたい。」と感謝と霊断布教の誓いを述べた。

その後、荒行僧による特別総加持と、厄払いが十四座行われ、荒行僧、本厄歳者により、「福は内」と大きな声を上げ、盛大に福まきが行われた。

参拝者は大きな「よろこび」を感じて、お題目を唱え月守様を身に着けて、一層の法華経修行を誓い合いながら、家族と共に法華寺を後にした。

全国の聖徒さん紹介

北海道妙正寺聖徒団

小木貞雄さん(七十五歳)

今年も妙正寺本堂横に小木貞雄さん謹製の氷像鬼子母神様が誕生した。毎年妙正寺の節分会では、氷像鬼子母神様の前で御祈禱する。皆様の幸福を願って一心に作成して頂いた。

小木さんの家は稲作農家。昨年現役を退き、もっぱら趣味の彫刻に励んでいる。



チェーンソーで切り出す



ノミ等大工道具を巧みに操る



完成した氷像鬼子母神様

地元東川永土会のメンバー。冬は氷彫刻、夏は粘土彫刻を作成している。氷彫刻の世界大会で優勝する腕前の持ち主だ。気温はマイナス十度以下。チェーンソーのこぎり、ノミ等大工道具を巧みに操り高く積み上げた氷の塊を相手にチェーンソーで切り出して行く。氷のくずが体中に降りかかる。外観が掘り出され、ノミを使って細かな表情を彫っていく。優しいお顔の鬼子母神様が完成する。

先祖様にお題目をお唱えする。今年のお盆とお正月には親族一同が集まり、御大会には是非参加したいと今から楽しみにされている。妙正寺聖徒団 関正龍団長



氷像鬼子母神様の前でご祈禱

北海道平取町照恵寺聖徒団で「二日伝道」を開催



永田完英講師 (本部・霊断院主任)

二月七日、北海道平取町照恵寺聖徒団(品田祥皓団長)にて、本部より永田完英霊断院主任を一日伝道の講師に迎え、聖徒・壇信徒二五〇名を超えるなか、節分星祭り除厄開運祈禱会が厳修された。当日はマイナ

ス五度の気温を感じさせない快晴。十二時半より、团长、永田講師、近隣のお上人による水行が行われ、法要に先立ち、永田講師による一日伝道の法話が行われた。永田講師は自坊以外で法話を行うのはこの日が初めてで、緊張の中、やさしい口調で自身の高校生活から、現在に至る信仰体験、友人への霊断を通して行った霊断布教のすばらしさ。笑い声もあふれる中、霊断の神秘、お題目を唱えるご利益を解り易く話された。

永田講師は俱生神月守を着帯し、お題目を唱え、ご祈禱を受けてご本佛様のご利益を全身で受けられるよう元気に過ごして行きますように。と心に残る法話をしめくつた。祈禱法要では先ず、一〇〇名を超える厄年の方、一人一人に拭き取り祈禱が行われ、今年一年の本人の無難、家族の無難が祈禱祈願された。引き続き、品田团长の「福は内」の発声の下、豆まきが行われ、多くの歓喜の声が上がった。最後に品田团长より、「今年も一年間、家族一同が元気に生活し、良い年に致しましょう」と挨拶があり、節分星祭り除厄開運祈禱会を終えた。

聖徒さんの体験談 お題目と俱生神月守の不思議

東京都新宿区 清隆寺聖徒団 柴田 輝吉 (その一)

今は本当に俱生神さまに感謝して、妻と共に毎朝・夕の勤行に励み、これからもお題目の道信じ歩んでいきたいと思っています。かという私・柴田輝吉は、昭和二十四年に母が亡くなり、父が本家とは別に神楽坂の清隆寺にお墓を建てて以来、お世話になっております。「南無妙法蓮華経」のお題目をひと筋に、父が亡くなってからも妻と一緒に先祖を護ってきた。そして六年前から清隆寺の世話人を頼まれました。毎月一日と十五日に歴代上人のお墓と無縁さま供養墓の清掃、また彼岸会等の法会の太鼓のお役を仰せつかってきました。六十三才で定年退職した後は、お寺に行くのが楽しみの一つになり、今日に至っております。平成二十三年には、早稲田の感通寺より重仁上人が我が寺の副住職として迎えられ、若いお上人のお蔭で清隆寺聖徒団の活動に少しずつ活気が出てきました。色々なご縁をいただき、勉強会やお経の会に参加するようになりまして、初めて開く「日蓮宗聖典」の読経は、経本の順番通りでない所もあり、とまどいながら読誦しました。唱えている所が分からなくなると、隣に着座しているペテランのご婦人が教えて下さり、大変助かりました。そして、自然の流れのように「俱生神月守」を着帯するようになりました。



林团长と柴田さんご夫婦

平成二十五年秋に、私が身をもって体験した「俱生神様」のご守護についてお話をしたいと思います。秋の彼岸も過ぎた頃に、私は喉奥に違和感を感じて、内科医にトローチ錠を出してもらいました。九月下旬、水を飲んだ時に喉の奥にヒリッとする刺激痛を感じたので、洗面所の鏡に向かい舌の状態を確認すると、一見して口内炎の様な感じではあるが、白い斑点状の輪が見えました。これは早めに耳鼻咽喉科で見てもらえばいいと思い、早速診察を受けました。すると先生は「紹介状を書くから大病院へ行つて精密検査を受けて下さい」とおっしゃり、病状についての説明はありませんでした。その足で大病院に行き、問診・視診・触診・画像撮影と進み、初めに言われたのは「九十%癌です」と言う言葉でした。そしてすぐ病理組織検査の為に喉にゼリー状麻酔をかけ、腫瘍患部の切片切除を二ヶ所行い、生体検査に出しました。丁度切除が終了した時に妻が病院に着き、私と一緒に担当医から診断結果の説明を受けました。この時は「九十九%癌」と言われ、明日メディアカルスキャンでCT画像検査(リンパ節への移動や他の異常を診る為)を受け、その結果と併せて、今後の対処法を決めようという事になりました。私は、この癌告知を受けた時点で六十六才で

第五十五回 日蓮大聖人の歩まれた道

諸国への遊学(その八)

靈断院教学部長

小泉 輝泰

「高野山に本寺、伝法院といし二の寺あり。本寺は弘法のたてたる大塔大日如来なり。伝法院と申すは正覚房が立てし金剛界の大日なり。此本末の二寺昼夜に合戦あり。例せば叡山、園城のごとし。誑惑のつもりて日本に二の禍の出現せるか」
(報恩鈔)

南都の諸山を巡った蓮長は、いよいよ最終目的地である紀州の高野山を目指します。伝記によれば、南都を離れたのは宝治二(一二四八)年の暮、御年二十七歳の頃であったとされます。

高野山は、言わずと知れた日本真言密教の開祖、弘法大師空海によって開かれた、真言宗総本山金剛峯寺を有する密教の聖地です。
弘法大師は信任の篤かった嵯峨天皇から一万町歩もの寺領を賜ったとされ、その最盛期には七千七百の坊がひしめき合っていたと言われている。



高野山々内も、良禪の金剛峯寺(本地)方と、覚鑊の伝法院(院)方に分かれ、高野山を追い出された覚鑊の一派は、根来に伝法院を移すなど、両派は激



ます。また鳥羽天皇の皇后であった美福門院が、亡き天皇の菩提を弔う為に六角経蔵を建立し、紺紙金泥の一切経を奉納するなど朝廷との繋がりは大変深く、大きな権勢を誇っていました。

弘法大師の没後は、その高弟であった真済、真雅、実慧などが師の志を継いで高野山を発展させましたが、やがて東寺、高野山、神護寺がそれぞれに独立をし、更には仁海の大成させた小野流や、寛朝の広沢流などの二派が生じ、それが野沢根本十二流と呼ばれるほどの多くの流派に分派してゆきます。「真言宗」と聞くと単純に一派のように思われますが、実は多くの門流の集合体であるのです。

しい争いを繰り返して来ました。それはまるで「比叡山の山門派、寺門派の争い」のようである」と、蓮長は当時の様子を皮肉っています。

高野山に辿り着いた蓮長は、金剛峯寺の手前にある高野十谷の内の一つ、「一心院谷」に入ったとされています。この一心院谷には、五坊寂靜院がありました。

この五坊とは、「妙法蓮華經」の五字に因んで「妙智坊」「法智坊」「蓮智坊」「華智坊」「経智坊」の五つの宿坊が存在し、後に一心院、また蓮長遊学の頃には五坊寂靜院と改称されていきました。遊学の最終仕上げを志す地として、蓮長にとってこれ程相応しい場所はないでしょう。

初めての「星まつり祈願会」



一般参加の体験水行



法要前に吉田静正管区会長よりご法話

一月三十一日、青空が広がる中、宮崎県日向市本光寺聖徒団(吉良貞徳団長)に於いて二月盛運祈願会に併せて、本光寺聖徒団初めての星まつり祈願会が行われた。

最初に僧侶の水行後、厄年の方々が当山団長と一緒に水を被る時「よっしゃー」と大きな掛け声と共に身を清めた。その後、本堂にてご祈禱前に、同県靈断師会(吉田静正会長)に水行、御祈禱、俱生神月守のわかりやすく丁寧な御法話をしていた。

いた。御祈禱が始まると参拝者約百名の方々のそれぞれの願いを込め、お題目が唱えられ本堂内に響いていた。

法要後、一日伝道を開催。本部から吉田憲由講師が自身の神秘的な体験やお題目の有難さを説き、俱生神月守を着帯して信仰生活の中に必ず御守護がある。「想いは現実をつくる」と力強く御法話をされ、涙を流す聖徒もおられた。

最後の豆まきでは厄年の方々が奉納いただいた豆を「福は内々福は内々」と厄年の方々が撒かれ、たくさんのお豆やお菓子に子ども達は喜び、本堂内は最高の笑顔に包まれ初めての節分水行会を無事に終える事ができた。

よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

法要の時、お坊さんが撒く紙の花びらは何?

花びらをかたどった紙を散華(さんげ)というのよ。仏教では花の上というのは、清らかな場所とされているの。お寺の仏さまを見ると座っている台座の部分に蓮の花などが彫ってあるものが多くあるわよね、これは花の上という清らかな場所に仏さまがおられることを示しているのよ。

こういつたことから、法要をする時にお堂の中を清めるという意

味合いで花を撒いているの。また、仏さまがおいでになられた際に花を散らして供養した故事にもちなんでいると言われているのよ。本来であれば本物の花びらを撒くのが良いんだけど、法要の度に沢山の花を用意するのが難しかった為に花びらを象った紙を撒くようになったのよ。

他にも、仏さまが説法をされた時に天人が仏さまを讃えるために天より華の雨を降らせたことから、法要の際に仏さまを讃えるために撒かれるようになったとも言



われているの。法要で散華を撒いた際には仏さまが花の上を歩いたということ、功德があるお守として散華を持ちかえる人もいますね。
四月八日はお釈迦様のお生まれになられた「花祭り」。お花を捧げ甘茶を飲んで感謝の気持ちを持ちましょう!

つながる通信員!

教誌よろこびを共に作成している全国の通信員を毎月紹介していきます。



No. 12
北海道北東部
関正龍(千鶴子)
妙正寺聖徒団

寺庭婦人となって九年になりました。子どもはおりませんが、たくさんのお姑さん(聖徒の皆様)がおります。九年間無事に寺庭婦人を務めてこられたのも、たくさんのお姑さんのお蔭だと思っております。これからもお姑さんと仲良く楽しくお寺を盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

よろこび法話

母の一言とお題目が私の支えです



日蓮宗霊断師会 聖徒部 部長
愛知県名古屋市長 本覚寺聖徒団副団長
伊藤 秀温

毎月の盛運祈願祭に欠かすことなく参加するAさん。今でこそお寺に来ることが楽しみなAさんですが、前向きに仏さまに手を合わせることができたのは長い時間がかかりました。

Aさんは三十年ほど前、御主人と結婚をし、両親にも迎え入れられひとつ屋根の下で暮らすことになりました。幸せな生活を送れると信じていたのも一転、同居をしてみると義母はとて厳しく叱られっぱなしの日々が始まったのです。料理の味付け、掃除の仕方、やることすべてを注意され、謝ってばかりの日々でした。

そんなつらい日々を送る彼女にとって一番つらかったのが、お仏壇での毎朝のおつとめでした。義母はお経とお題目を唱える

のが日課で、嫁いだばかりの彼女にもおつとめを日課にさせました。実家であまり手を合わせる習慣のなかったAさんは、お経も読めず作法もわからず毎朝義母に叱られて一日が始まるのです。仏壇に座らなければ叱られる、座っても叱られる、言われた通りにお題目を唱えさせられる日々が何十年と続いたのでした。

やがて義母も高齢となり少しづつ介護が必要となり、Aさんの手を借りなければ生活することが困難になりました。それでも義母は相変わらず、彼女に文句を言い続けていました。じつと耐えていたAさんも心の中で「いつそのこと早く・・・」と思うようになってしまいました。

そんなことを思うほど思い詰めていたある日、いつものように夕食を済まし自室にいと、「パターン」と大きな音が響き、急いで行くと義母が意識を失い倒れていました。呼吸も浅くた大事でないと感じた彼女は、すぐに救急車を呼びました。待っている間をよいかわからなかった彼女は次の瞬間、自然と義母の手を握りしめ、あれほど辛かったお題目を唱えて「仏さま助けて下さい。」と必死に祈っていたのでした。初めて心からお題目を唱えることができたのです。すると、やがて救急車のサイレンが聞こえてきた頃、意識を失ったままの義母がお題目を唱え続ける彼女に向かって、「今までありがとうな、お母さん。」と



小さくか細い声で呟いたのでした。これまで一言も感謝の言葉を発したことのない義母のその一言が、これまで数十年のつらかった思いをすべて洗い流し、彼女の目は涙で溢れたのでした。その後、救急隊員が駆け付けましたが、義母はそのまま他界することとなりました。

「義母がいる間は仏さまの前でお題目を唱えるのはつらくて仕方がなかった。けどあの時だけは不思議と口からお題目が出たんです。後々聞くと義母も若い頃は義両親につらく当たられたそうで、そんな時はお題目を唱えていたそうなんです。そうすると不思議と乗り越えられたみたいで。義母は自身が助けられてきたお題目を私にも教えてくれていたんです。だけど、やらせられていたとしか感じられず手を合わせるものがつらかった。いつまでたつても気づかないダメな私に命と引き換えにお題目を教えてくれたのだと思っています。今は義母の一言とお題目が私を支えてくれていきます。お題目を唱えると義母が隣りにいてくれる気がするんです。私も子供たちがお題目を心から唱えられようとしてあげたいと思っています。唱え続けているといつか本当に助けてもらえる時が来るんです。」と、話す彼女は毎月の盛運祈願祭で必ず義母のご供養を行い大きな声でお題目を唱えています。

本誌イラスト 小川けんいち

全国のよろこびちゃん vol.28



東京都 清隆寺聖徒団
深堀 幸助くん
深堀 美希ちゃん

七五三でパチリ!

いたずらっ子の幸助くん、お菓子大好きな美希ちゃん兄妹です。二人で仲良く待ちに待った七五三♪元気にご機嫌でお詣りに行きました!

全国のよろこびちゃんを募集しています!

第51回「身延大会」予告 平成28年10月9日(日)・10日(月・祝)

身延大会(第五十一回大会)に参加を予定する聖徒団の皆様は、宿泊先である宿坊・旅館等に早目のご予約をお願い致します。宿泊先を特定出来ない聖徒団の皆様は、「日蓮宗霊断師会・九段事務所」までお問い合わせ下さい。

今年の身延大会は
十月に開催します!!

- 家族みんなで着帯しましょう...家庭円満に安心して過ごせます。
- 知人の悩みにも...分かち合うことの喜びを味わえます。
- 引越や旅行の時に...方位除け・盗難除けとして。
- 霊断を受けたら...まず着帯して下さい。良い結果が訪れます。



眞生 神月 尊

家族みんなを着帯しましょう

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

安房乃國隨一 三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団
団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」
〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定
仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03 (3843) 6951
FAX 03 (3843) 6973
定休日 日曜日

利生寺

日蓮宗霊断師会会長
利生寺聖徒団副団長
末吉 観道
副団長
末吉 正道

〒930-0055 富山県富山市梅沢町3-16-10
TEL 076-421-8776 FAX 076-421-8250

正蓮寺

日蓮宗霊断師会 副会長
日蓮宗宗議員
正蓮寺聖徒団 団長
大塩 孝信

〒290-0151 千葉県市原市瀬又134-1
TEL 0436-52-0207
FAX 0436-52-2288